

## 平成28年度 第2回 宇都宮市総合教育会議 議事録【概要版】

- 1 日時 平成29年3月27日（月） 午後4時～午後5時
- 2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室
- 3 出席者  
（構成員） 佐藤市長，  
水越教育長，大場教育委員，伊藤教育委員，山田教育委員，清島教育委員  
（関係者） 高井副市長，吉田副市長，  
（事務局） 篠塚教育次長，小堀学校教育担当次長，梓澤教育企画課長，  
増渕総務担当主幹，神谷学校管理課長，栗原学校教育課長，  
大島学校健康課長，川俣生涯学習課長補佐，伊藤中央図書館長，  
松本文化課長，阿部スポーツ振興課長，小林教育センター所長  
大出教育企画課長補佐，田上教育企画課企画G係長，  
関教育企画課総括主査
- 4 傍聴者 0名
- 5 議題

(1) 平成29年度教育委員会基本方針（案）について

### 6 議事の内容

#### 1 開会

篠塚教育次長

定刻になりましたので、ただいまから、平成29年度第2回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育次長の篠塚でございます。よろしくお願いいたします。

#### 2 あいさつ

篠塚教育次長

はじめに、佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

佐藤市長

佐藤市長あいさつ

篠塚教育次長

続きまして、水越教育長よりごあいさつをお願いしたいと思います。

水越教育長

水越教育長あいさつ

篠塚教育次長

ありがとうございました。  
ここからの議事の進行については、市長をお願いしたいと思います。  
佐藤市長，よろしくお願いいたします。

#### 3 議事

佐藤市長

それでは早速，議事に入ります。  
事務局から説明をお願いいたします。

事務局

議事（１）「平成２９年度教育委員会基本方針（案）について

（事務局から平成２９年度教育委員会基本方針（案）について説明）

佐藤市長

ありがとうございました。

ただいま説明がありました、来年度の教育委員会基本方針についてですが、教育現場の声を聞きながら、今後１０年先、２０年先を見据えた取組を進めようとする教育委員会の思いが伝わってきました。

教育に力を入れていることは親御さんのみならず社会の安心感にもつながっていくのではないかと思います。

ぜひ、教育委員の皆さまからも教育委員会基本方針にかかる考えや、特に力を入れて取り組みたいものなど、それぞれご意見を伺いまして、その後、私からの意見をお話しさせていただきたいと思います。

まずは、大場委員からお話しをお願いいたします。

大場委員

それでは、私からは「基本方針(9)文化・スポーツ行政の充実」のところから文化についてのお話しをさせていただきたいと思います。文化といっても色々ありますが、宇都宮が持っている宝にもっとぜひ力を入れて頂ければと思っております。居住しているところに誇りが持てるということは「心の教育」でもあり、「人づくり」に大きく影響するのではないかと思います。先だって美術館で「石のまちうつのみや」という企画がありました。私は、大谷に非常に興味を持っていますが、その展示を見て、またシンポジウムを聞くことによって、さらに大谷と大谷石の魅力、重要性を強く感じました。大谷石は、日本列島が大陸から分離する際の海底火山からもたらされたものであるということ、耐久性、耐火性に優れ、加工、細工しやすいという点から２０世紀の代表的あり世界的な建築家であるフランク・ロイド・ライト氏が旧帝国ホテル建築の際に使用したということで大変有名になりました。また、ただ有名であったことだけでなく宇都宮が交通の要衝であったことから全国に出荷されたことにも非常に価値があると思います。今回の展示では、宇都宮には大谷石のための鉄路がたくさんあり、宇都宮に鉄道文化があったことに非常に驚きました。この企画展には、予想を超えて８，０００人の入場者がいたと聞いています。大谷を知ることによってますますその価値を感じる事ができますので、ぜひ、企画展で終わらせずに、子どもたちや宇都宮に観光で来られる方たちにも、もっともっと大谷の素晴らしさを伝えていけるような取組ができればと思っておりますし、市長にもぜひお願いしたいと思っております。

「日本遺産」認定を契機としたまちづくりは、大谷の魅力づくり、観光促進、PRなど教育委員会だけでは取り組めませんので、本市をあげての取組としていただきたいと思いますと思い申し上げました。

伊藤委員

来年度の教育基本方針の第８項「教育に関わる貧困対策の充実」についてお話しします。

誰でも親なら子どもに期待するのは当たり前だと思いますが、林 明子さんという研究者がおりまして、貧困家庭の事象的研究をしており、その中で、親が子どもに家庭的な役割を求めてしまう、例えば炊事とか、他の

子の面倒を見ることを求めてしまう。実は子どもはそれを嫌々やるのではなく、家の中で重要な役割を担っているということで、意義を感じながらやっているそうです。ちょっと見るといいことのように見えますが、親が子どもに頼ってしまうと、家庭のために進学の手続きが奪われることが多いらしいです。宇都宮市でも27年度の要保護世帯あるいは準要保護世帯の中学生が1500人くらいいる。程度に差はあるでしょうが、就学に対する意識が低いです。

家庭のために部活動もしない子が多いそうです。この研究は宇都宮ではなく川崎市の事例ですが、宇都宮でも似たような実態をもった子がいるのかもしれないと思います。教育委員会にはSSWという非常に有用な方たちがいらしゃいますが、そのような方だけでは対応が難しい。貧困の実態を知っているのは、生活福祉課や子ども家庭課、あるいは市民課、民生委員といった方たちなので、そういう方たちとタイアップして少しでも取り組んでいく必要があると思います。

山田委員

3番の学力向上ということで、教育委員会でも学力向上のために色々な研修会なども開いて対応しているところです。先日あるテレビ番組を見た時にマシュマロを4歳の3人の子の前に置いて、15分食べなかったらもう1つあげるよという指導をしたそうです。そして3人のうちの2人は食べてしまいました。そのうち我慢して食べなかった子の追跡調査をし、その子は大学に進学し、自分の就きたい職業に就いたそうで、コロンビア大学でもこの研究が実証され、信憑性の高い結果だと思います。何が良かったかということと子どもに自制して、先を見る目を養わせると、その子は自分を制して楽しみを後にとっておき、後に起こることを想像できるということに教育の原点を感じました。

本市の小学校と中学校の試験の結果を比較すると中学校の成績の方が良いのですが、小学校から自制の力を身につけさせるとさらに学力が上がるのではないかと思います。貧困問題と関係しているところもあると思いますが、留守家庭児童会で自主学習をしたり、放課後子ども教室でイベントを始める前に自主学習をしようという、やり方の分からない子は本を読み始めます。その時に自分が学校で習ってきたことを復習できる子は割とスムーズに時間を過ごすことができます。家庭学習を含めたところに保護者を巻き込む形で指導し、宇都宮の子どもたちに低学年のうちからそうした取り組みなどをやっていきたいと思っているところです。

清島委員

私の方ではICTの活用の話をしたいと思います。田原西小学校のICT機器の活用の授業を見学しました。グループ、個人ごとタブレットを使って、社会の授業の中では、画面で色付けをしたり、区分けをしたりしていました。自分達が後で復習をしようとなったときに、画面がないと復習できないということになると思いますが、一番ベターなのは、プリントアウトして持って帰って、自分がどういう間違いをしたか見直すような対策ができればよいと思います。せつかく高い費用をかけて導入した機械ですので、授業中はもちろん、放課後もパソコンクラブ以外の一般のその他の子どもたちも活用ができるような方法があればよいのではないかと思います。

水越教育長

先ほど委員さんから具体的な話がありましたが、全体的な部分で「ともに歩む教育委員会、先を見る教育委員会」を掲げておりますが、ともに歩むは一定できておりますが、これから力を入れていく必要があるのは「先を見ること」だと思います。今は、10年先がどうなるのかも予測できません。今の子どもたちが主役になるのは10年、20年、30年先で、その時に活躍できる子どもたちを今、育てなければいけない。そのためには市長がおっしゃっている人間力を身につけさせることが重要で、何を今するのかをきちんと見据える事が必要であると考えております。来年度は第6次総合計画の策定もありますが、それにあわせ教育委員会の計画の改定も多くございます。学校教育推進計画、小中学校体力向上計画、学校教育食育推進計画、地域教育推進計画等の改訂もあり、先を見据え、「教育・健康未来都市」日本一を目指し、そういう教育がどうあるべきかを真剣に考える年、そしてそれを計画に位置づけていくということが、大きな次年度の仕事になると思っています。もう1つは歴史文化基本構想を策定して、ぜひ日本遺産登録に結び付けていくという大きな仕事もございます。そして、国体の準備室の設置や開校準備委員会の立ち上げなど大きな節目の年になると思っています。以上でございます。

佐藤市長

ありがとうございました。一通りご意見を伺いました。私の方からもコメントをさせていただきたいと思います。

大場委員と教育長からも発言のありました日本遺産ですが、歴史文化基本構想策定の中でストーリー性を持たせてこの大谷という遺産を活用していくことを現場でも考えております。それは一つのツールだと思いますが、それ以外にも大谷の観光の再生とか、現場の産業力を有機的に結びつけて大谷の可能性をさらに拡大して、かつて以上の大谷の賑わいを取り戻していきたいと思っています。その点日本遺産の登録となればPRしやすく、話題性にもつながると思います。TV局が相当大谷を取り上げていますが、文化の意味で盛り上げてもらえ、文化、歴史を後世に伝えていく上で一つの大きな見本、模範になるのではないかと思います。関東自動車と連携し一日乗車券とかをやってきたら、たまたまテレビ番組に取り上げられて、人が来るようになりましたので、観光地としての拠点づくりを進めていくことができるのではないかと思います。あとは、産業としては夏と秋に収穫できるいちごを大谷の冷却水をくみ上げて作ることができるようになり、完成したので明日沖縄まで行って実際に契約までなる状況でございます。一連の大谷振興そして北西部のまちづくりに寄与して限界集落を作らない、そして今まで以上の大谷の賑わいを取り戻していきたいと思っています。

また、伊藤委員からも発言のありました家庭のため、貧困、家庭の状況によって進学が失われる、親の学歴がそのまま子の学歴に繋がっていく、中学校卒業だと中学、高校卒業だと子どもも高校まで、大学に行く子はほとんどの親御さんが大学を出ている、日本もそういう時代になってきました。特に学習意欲が高い子には、学習、進学ができる可能性を社会がきちんと用意していくことが必要だと思います。本市でも返還をしなくて済む奨学金の制度を始めましたし、まだまだ足りない部分もあると

と思いますが、教育現場だけでなく保護者の生活が少しでも楽になるということで第3子以降の保育園無料とか中学3年生までの医療費の無料化とか教育委員会以外の部分でも生活しやすい、子育てしやすい環境を社会全体として支援していかないといけないと思いますし、市としても拡大していく覚悟でいますが、本来であれば国が行うべきことだと思っています。どんな地域に住んでいても同じ医療、教育が受けられるのが基本だと思っています。しかし、就学の支援を行っていない市町村もたくさんありますし、医療費も未就学前までの自治体もあります。住んでいる所が違って同じ支援を受けられるということが教育を含めてやっていかなければならないと思います。特に教育については、国に対しても要望していきませんが、市独自でもできる限り展開をしていきたいと思っています。

先だって参加したロータリーの会合の中で、今教育現場の課題の一つが貧困だという話をしました。国際交流も必要でこれからも活動は続けてもらいたいのですが、国内ではこれからもっと格差が出てくるので、自分達の足元にも目を向けロータリーの皆さんの力を貸してほしいという話をしました。学校現場でロータリーの支援とかの話がありましたら、検討することも大切ですが、できる事をできるところからやってもらい、こういうことも企業の力を呼び込むという流れにつながりますので、ぜひ教育委員の皆様にもそういうところでお力を発揮していただきたいと思っています。

次に、山田委員がお話されていましたが、自主的に勉強をやることの習慣が身についている先進の自治体もあるようですし、自分でやらないとよく分からない、成績が上がらないということは私も重々承知しておりますので、そういう環境を作っていくことが必要だと思っております。家庭教育も食育を通して力を入れている本市でありますし、家庭にどのような支援ができるか、家庭にどのように入っていくか、入っていけるかも大きな課題です。PTA活動を経験された方が多い教育委員会でありますので、ぜひそういう立場からかつての経験をうまく生かしていただいて、自主的に勉強する習慣を身に着けさせていただきたいと思っています。本市としましては食育を進めているとともに約10億円かけて様々な市単独での事業、施策の拡大を図っています。かがやきルームや習熟度別教室で学校教育においても家庭教育の必要性、あるいは自主的な学習を相当子どもたちへ指導していると思いますので、そういうものがきちんと歯車があってくるとよい結果に繋がるのだと思います。

清島委員からICTの活用の話をいただきました。私も実際に行って授業をみてきましたが、一番分かったことは目の弱い悪い子でも、後ろの席でも十分理解ができるということです。先生も子どもたちの質問を簡単に受けることができる、何ページといってもみんながページをめくる時間がかかることもない、子どもたちが笑顔で楽しみながらやっていました。時間をみていかないと効果は分かりませんが、今導入してここにもしっかりと力を入れて効果がでるようにしていただきたいですし、市長部局としても精一杯拡大できるように我々も努力していきたいと思っています。

最後に教育長から色々お話がありましたが、教育長がおしゃっていたこれからの先の時代を見据えてどんな時代にも対応できる強い人間力、たくましい人間力がいつの時代にも必要ですが、これからの時代は一人一人の

人間力を高めるのはもちろんのことですが、自信を持てるような教育を施してほしいと思います。体育の得意な子が体育で活躍できる場がないと学校がおもしろくなくなり、高い教育を受けることができませんし、また、勉強ができる子がみんなから素晴らしいと称賛される場面がないと勉強する気がなくなるのではないかと思います。もちろん掃除が得意な子もいますし、音楽が得意な子もいます。また遊びが得意な子もいると思います。学校現場ではぜひそういう点にも注視していただきたいと思います。その一環で9年間義務皆勤賞ですとか、卒業するまでに子ども達に1枚は賞状をあげるということに力を入れていただいているかと思いますが、そこにもさらに重点的に力を入れて欲しいと思います。

それでは今の続きでも結構ですし、その他でも結構でございますので教育委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

山田委員お願いします。

子どもの不登校の問題では、各小中学校でかなりの数の子ども達が不登校でいて、小学校から中学校へ不登校が引き継がれ、中学校で卒業証書はもらったけれども、義務教育が終わると宇都宮市から離れてしまう。その子ども達の救いあげが今のところないのではないかと思います。たくさんの不登校の子たちがずっとひきこもったまま成長してしまうと、社会へ出られないため、何かしらの施しが必要ではないかと思います。不登校の子たちが高校に行く、そして高校でも学校にいけない、救いあげがないということに、どこかで横の連携を図りながら教育をしていく方策を打ち出していただければいいなと思います。

山田委員

何か具体的な方策というのはあるのでしょうか。

卒業したら中々その把握はできない状況ですが、県立高校の再編の会議に出まして、そういう子どもたちはどういうところへ吸収されるのかといいますと、通信制や定時制の高校にそういう子どもたちが行く割合が多くなっており、受け皿となっております。もう1つは今、議会でも質問が出ておりますが、国から各県に1つ夜間中学を設置するよう言われており、そういうところを不登校の子どもの受け皿にしようとしています。各県に1つということで宇都宮だけの問題ではありませんので、県に働きかけて協議の場を設けてくださいとお願いしているところです。これから議論をしながら受け皿を作ることとなりますが、もちろん不登校をさせないということをもっと考えていかなければいけません。それと同時に、不登校となってしまった子ども達をどうしていくかを考えていかないと、支えるべき人間が支えられているようでは、それこそ日本は立ち行かなくなってしまうので、真剣に考えていかなければいけない大きな課題であると認識しています。

佐藤市長

水越教育長

佐藤市長

日本では不登校からはじまって、ひきこもりといった数は、宇都宮の人口より多い54万人となり、本来は現役世代の下で支える側の人間のはずなのに、支えられる上になってしまっています。下は苦しいし、社会にとってもよくない。支えている学校現場はよくやっていると思います。先生

の熱意だけでは解決できないケースもありますが、先生の熱意がその生徒には救いだったということもあるかと思います。

大場委員

教育長が通信制の高校が不登校の受け皿になっているとおっしゃいましたが、実は大学でも通信制高校から入学した学生は不登校になりやすいという実態があります。不登校は、その子供の人生に係わる問題であると言えるのではないかと思います。その人の人生の問題になっていると感じております。

水越教育長

学校は集団生活を身に付ける場なので、それがないと社会に出てもやっていけなくなってしまいます。

佐藤市長

近所づきあいが希薄になってしまうと、なぜ学校へ行かないのとか聞いてくれる人がいません。

民生委員の方は自分の常識が相手に全く通じず苦しいと言っていました。どこにすがっていいのかを考えると苦しくなってしまうので、成果が見えないけれども地道にやっていくしかないと思います。そこを諦めてしまうと二歩も三歩も後退してしまいますから。

それでは、そろそろ時間となりましたので、意見交換を終了したいと思います。

平成29年度教育委員会基本方針につきましては、本日の意見交換の結果を踏まえ、教育委員会で最終的な方針を策定していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

#### 4 その他

佐藤市長

それでは最後に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございましたらお願ひいたします。

(意見などなし)

#### 5 閉会

篠塚教育次長

では、特になければ、次回の会議に向けて今後御意見をうかがいながら、議題を調整していただければと思います。

それでは、進行を事務局に戻します。

市長、ありがとうございました。  
以上で、平成28年度第2回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。